

※解答はすべて解答用紙に記入すること。問題用紙は持ち帰ること。

持ち込み品は全て可。ただし、携帯電話はかばんの中にしまっておくこと(時計、字引としての使用は認めない)。

問題は大きく①・②の二題である。①は一問につき一行ずつ使って答えよ。

次週は答案を返却するので必ず出席すること。

① 後の空欄①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮に適切な語句または記号を入れなさい。

(1) 日本列島には、少なくとも三つの言語が存在していた。アイヌ語、日本語、①語である。アイヌ語は現在、生活の中で用いられていないことから消滅した言語という位置づけになっている。

(2) 国語学という名称は②を解釈するために発達してきた学問体系、日本語学という名称は日本語という言語を対象とする学問体系の名称である。

(3) ある言語を用いる社会で同じ音だと認識されている音声を③という。日本語では「1」音が存在しないため、riceもliceも同じ音に聞こえるなどの例がある。

(4) 定義の要素として構音点、構音法、声帯振動の有無の三つで決まるのは④である。このうち、「k」と「g」の違いは⑤の要素による。

(5) 日本語を数えるときには拍(モーラ)という単位を用いる、一方、音声学では音のまとまりを示す音節という単位がある。「緊急車両(きんきゅうしやりょう)」は、⑥拍(モーラ)、⑦音節の語である。拍(モーラ)を数えるときには⑧音に注意する。もともと日本語になかった音だからである。

(6) 濁音は一つの単語であるという語のまとまりを示す機能がある。雨蛙は「あまがえる」で「かえる」が濁音化して語のまとまりを示している。一方で、雨粒は「あまつぶ」で「あまづぶ」にはならない。これはもともと後部形態素に濁音が含まれているからで、これを⑨の法則という。

(7) 日本語のアクセントは、東京式、京阪式、一型の三種類に大別されるが、最も古のは⑩、最も新しいのは一型である。京阪式の「⑪」を「⑫」のように二拍分の時間を用いて構音するところに特徴がある。

(8) 語は音の連続である⑬(語形)と指示対象を意味が結び付けて成り立っている。つまり、語は意味があれば実体のない「幽霊」なども言い表すことができる。

(9) 斎宮忌詞と呼ばれる位相語がある。ここでは死や血に関することや仏教に関することを通常用いられる語形と異なった呼び方をしている。例えば、「僧侶」を「⑭」という。

(10) 日本の方言研究は区画論、方言地理学、社会言語学のように発達してきた。このうち、日本に本格的な方言地理学の手法を紹介したのはベルギー人の⑮である。

② 古辞書と近代国語辞書の違いについて、それぞれの発達の歴史や機能(使われ方)に着目して説明せよ。

